

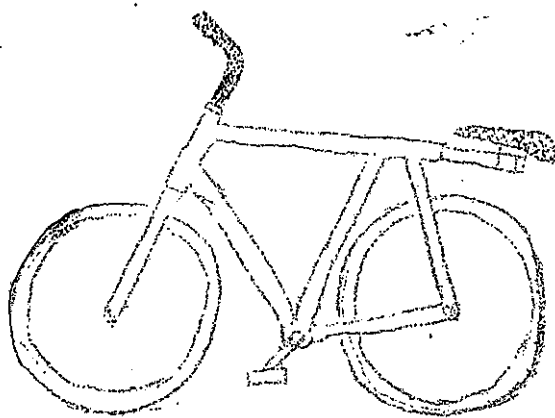
サイクル・マシン

3年 化学科 ミウラ
ミツナガ

なんとも奇妙な響きを持つコトバである「サイクル・マシン」。私は3年間 サイクルサッカーという、知らない人が聞いたら目をパチパチさせ不思議そうな顔をするスポーツに心身ともに打ち込んできた。当然のことだがかなり金もつぎ込んだ。特に2年生であつた1年前、毎日のように練習した。1日1日サッカー車のハンドルを握らなないと気が済まなかつた。バテ、ボディコントロール、などを養う独自の工夫、フォーメーションプレーの研究、力学的観点からのサッカー車のスケルトン(寸法)の考察、その他このスポーツについてのあらゆる知識、技術を身に付けようとしていた。私は、ようするにサイクルサッカーが好きなのであつた。大学生でもある私は、勉強もしなければいけないが、ある一つのことに熱中してしまうと他はまるでためな性分なので、成績は超優秀飛行を特許していた。つまり私はサイクルサッカーをやるだけのマシンになつてしまつたのだ。なぜこれほどこのスポーツにほれてしまつたのか。

私は、サイクルサッカーをやるために大学に柔道のではなかつた。柔道をしたハダミはサイクル部に入り、そこには安井さんという風変わりな人物をみた。それが運命の出会いであつたのだらう。私にとって不運だつたのは、最も上達する

時期である1年生の後期、体育館の床のはりがえのため使用不可能になってしまったことである。よく辻井さんと寒い風が吹く外で、暗くなるまで練習したことが目に浮かぶ。安井さんにおこられながら、一ヶ月の技術を獲得してきた。そのおかげで私と山口さんのペアは、まあまあの実績を挙げたのであった。確かにうちの大学は、サウザンカーは強い。しかし、体育館が使えて、サッカー草も自持しているし、ボールもかなり手厚いのである。強いのは当然であろう。ついに他の大学が弱くなった。後輩どもは週二日の練習で満足しているのか不安である。私はサウザン・マシーンではあったが、それはサウザンカーに限ったことで、他の事は人間らしさを失わなかった。(?)



私はサウザンカー部の部長というものを経験した。任期が終了してみると、自分は一年何をしたのだからよく覚えていない。部員にとってはたおない、どうでもええ部長だったのかもしれない。しかし潔しかならぬで、もう以前と同様には、部にはいらぬ立場になってしまった。

それが辛い。全国を飛び回ったわけだから、金もかかった。
しかし、もう金をいくら積んでも以前のような経験は再現
できないのだ。サイクリングとは オレの趣味以上のもので
あった。サイクリング部を通じ 人間関係を学び、体を鍛え、
ついでに遊びも覚えた。オレは去りゆく者の 1人であ
るが、これからの部に望むことは、もう少し大人数のク
ラブになてほしいのだが……。みんなで、ワイワイ、ガヤ
ガヤ、1人1人は勝ちなことをやっているのだが、ここぞという
時は みんなが 1つになるクラブが本来の部の姿だと
オレは 思っている。

まあ 石田君、適当に がんばってください。
来年は 麻雀大会 出るぞ にかヤロー

来年も 五月しかつた 出たいな テンツッテ

来年の T、T は 出るのかな ~ フザケルナ

来年は 山口さんはいないので 部室には いつも誰がい
るのかな。(オレだ、たりして)

来年は 新入生 何人 いるのかな? (元気のいいのがほしい)
部員 身よタラッタ タラッタ、ラッタ ~ 1冊

⑤ 来年とは 昭和 56年度のことでお祈りします。

